

報告書

この度 シンガポール海外研修 に参加したので
その結果について、次のとおり報告します。

記

- ◎ 年月日 平成28年10月11日～15日

- ◎ 出張先 シンガポール

- ## ◎ 用 件 海外研修（保育園視察）

- ◎ 概要

シンガポール海外研修報告書

1. シンガポールとは…

首都 : シンガポール
公用語 : 英語 ・ マレー語 ・ 中国語（北京語） ・ タミル語
面積 : 710 km²
人口 : 5,410,000人
通貨 : シンガポールドル
独立 : 1965年8月9日 マレーシアより独立
人種 : 中華系75% マレー系14% インド系8% その他3%

2. シンガポールの幼稚園・保育園について

★種類

- ・ 日系（日本人向け）
- ・ インターナショナル系（外国人向け）
- ・ ローカル系（シンガポール人・地元の人向け）

★クラス編成

- | | |
|-----------|----------------|
| ・ 18か月～2歳 | プレナーサリー |
| ・ 2歳～3歳 | ナーサリー1 (N1) |
| ・ 3歳～4歳 | ナーサリー (N2) |
| ・ 4歳～5歳 | キンダーガーデン1 (K1) |
| ・ 5歳～6歳 | キンダーガーデン (K2) |

ECDL（幼児開発機構）…以前は幼稚園、保育園の管轄は別々だった。

2年前から同じ管轄になり統合された。

保育園（乳幼児）・・・2歳～6歳 保育時間は1日か半日を選ぶことができる。

幼稚園 ・・・ 3歳～6歳 保育時間は3～4時間

3. シンガポールの子育て支援対策について

シンガポールは島国で多民族国家のため資源がない。 ⇒ 人材が唯一の国家資源と考える。そのため、国が子どもを育てるという考えが強く、いろいろな子育て支援がある。

★ベビーボーナス制度

6歳までに銀行口座に積み立てをするとそれと同額分を政府が振り込んでくれるという制度。無駄なく確実に投資をすることが国が子どもを育てるということを考える。

1家庭4名、6回まで

★保育料に対する補助金制度

- ・満2か月～1歳半までの一日前保育・・・600ドル（約3万8千円）
- ・1歳半～6歳までの半日保育・・・300ドル（約1万8千円）

政府よりの現金支給ではなく保育料から補助金を差し引いた金額を納めるようになっている。
園側が政府より補助金の交付を受ける。

4. アセンションキンダーガーデン（幼稚園）H.28.10.12 AM

創立51年目 教会が運営している。職員、保護者共にキリスト教の教えを理解している。

★保育プログラム 「YOU CAN DO IT！」

- ・自分で考えて行動することを身につけていくようにしている。
- ・壁にそれぞれの部屋のフレーズが廊下に掲げてあり子どもたちが日常的に声に出して言っている ⇒ 言葉のすることでより実践しやすくなる。（言葉にはやろうとする力がある）
例えば・・・きちんと片づけよう
先生の話を聞こう
時間を守ろう など
- ・カリキュラムは1年を4期に区切り10週を1期としている。それそれにすることも廊下に貼りだしている。

★保育時間 午前と午後の2部制になっている。（3時間15分の保育時間）

午前・・・8：00～11：15（10：00頃おやつを食べる）

午後・・・14：00～17：15（必要なら給食とおやつを食べる）

午前の子どもたちはメイドさんが迎えにくることが多い。

★保育について

◎3歳児

14名を2人の保育士で見ている（他にも専属の英語担当・中国語担当が各クラスにいる）

7名があそんでいると7名は別室で英語や中国語を勉強している。

基本的に小グループで活動している。隅々まで目が行き届き、いろいろな面で配慮できるためである。

- ・グループであそんでいた子ども同士でトラブルは起きないとのことであった。

⇒取り合いにならないほどの十分なおもちゃを用意していること

順番がくるまで待つ、譲り合うことを日常的に教えていたことだった。

1つの部屋（場所）は30分で時間を区切り、違う場所へ移動してあそんでいる。

1か所に長くいると飽きてしまいトラブルが起きる。それを防ぐと同時にいろいろな環境で過ごすことでその環境に対応できる力を身につけていくためである。

部屋はオープンコンセプト（ワンフロア）になっており4つのクラスが区切りながら、シェアをしている。

※子どもが感情的になった時にどうしたいかを聞いておく。

◎怒る、イライラした時・・・甘いものを食べる、深呼吸をするなど

◎5歳児・6歳児

2階が保育室になっている。

隣に音楽室（ホール）があり、発表会の練習なども行う。床にはいろいろな方向に目印のテープが貼ってあった。視覚からしっかりと自分の位置を覚えることができる。

廊下には子どもたち個人の作品とグループでの共同作品が貼られていた。

自分で作り上げたものを貼りだし見てもらうことによって自信になっていく。共同作品は4つのグループに分かれ四季を制作していた。

シンガポールには四季はないが旅行に行った時などに四季を知り、協力して制作した。また、四季を知ることで世界を知る手掛けりになると考えている。

学ぶことニアート・・・必ず絵には言葉（メッセージ）を添えて貼りだすようにしている。

◎パソコンについて

シンガポールでは・・・小学校1年生でパワーポイントの学習、2年生でプログラミングの作成を学習する。

そのために5歳児、6歳児でパスワードの入力やコピーの仕方など簡単な操作を理解できるようにしていく。部屋には子どもが使用するパソコンが置いてある。（先生の指導の下に使用）

◎遊びについて

- ・石をアルファベットの形に並べ、文字を作ってあそぶ。
- ・砂場に宝物を埋めてトレジャーハンティングごっこをする
- ・はっぱで料理を作る。
- ・本の読み聞かせ（年長児が読み聞かせをすることもある）・・・図書館があり貸出もできる



遊びの中から学習できるようにしている。

※いろいろな〇〇の日を決めている。

◎職業経験の日・・・警官の仕事について学ぶ ⇒ 実際に来てもらい仕事を教えてもらう。

制服も保護者が作り雰囲気を味わう。

黄色の日・・・家から黄色のものを持ち寄り部屋を黄色で埋めて環境の変化を楽しむ。

★Our Vision

すべては神様によって導かれている。

すべての子どもは神様からの贈り物である。

養育する環境を作り出し、人生を通して楽しく学んでいかなければならない。

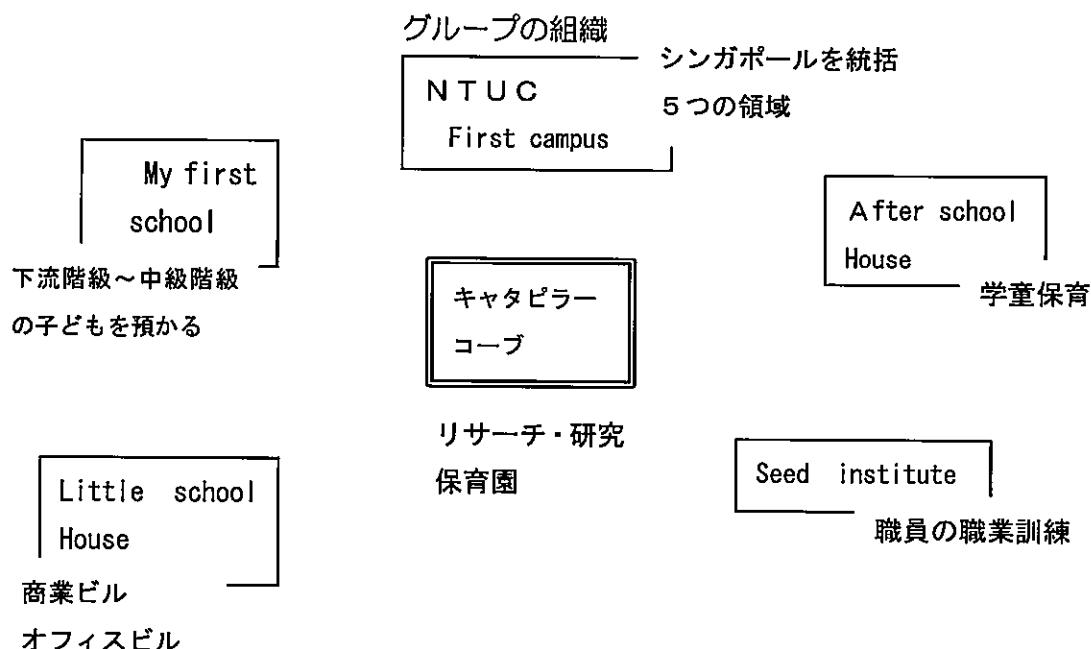
そのためには遊びを通して学ぶことが大切である。

職員同士の密の連携も大事であると考える。

「何のために学び、成長するのかそれを証明しなければならない」

5. キャタピラーコーブ幼児教育研究センター H.28.10.13 AM

- ・イーツアイ 7階 職業訓練斡旋機構
新しい技術を訓練するための施設



キャタピラーコーブ

- ・ほとんどの保護者は口コミによって興味を持ってくることが多い。
- ・土地がないためほとんどの保育園はビルの中にある。
⇒ 幼児に対しての環境整備を研究している。

★園の基本的な考え方

「物があふれているような環境ではなく、シンプルでも想像を働かせられるような言葉掛けや環境づくりをする。」

★カリキュラムについて

0歳児～3歳児…子どもと職員の関係性やふれあいを大切にしている。

あそびや探索をする中で安全と安心性、信頼関係を基礎としている。

4歳児～6歳児…数や文字は強制しないが小学校の就学に向けては大切なカリキュラムと考える。

工作やあそびを通して自分で考え想像する力を育てる。

◎園内について

オープンスペースになっており、仕切りで区切り、それぞれのクラスがすごしている。

各クラスに英語、中国語の専門の先生がいる。

ドアをはさみ、室内に園庭（砂場）がある。空間が限られているので人数を分けてそれぞれのスペースで有意義にすごしている。

園外に散歩に出ることもある（周辺や図書館など） ⇒ 地域社会の環境を認識させるため食堂も保育室に隣接されており順次食事をとるようになっている。

◎研究の成果について

カリキュラムの実践



データを見る



データを専門家が分析する

常に経過、観察をしていくことが大事

大学と連携をしながら研究をしている。

研究を続けていくこと・・・助成金が出る。それを次の研究に生かすことができる。

◎小学校との交流を行っている。

◎避難訓練

6ヶ月おきに実施している。

ドアにはオートロック

園内にはカメラを置いていない。保護者との信頼関係を大切にしている。

6. チェリーハーツディスカバリー・ランド（保育園）H.28.10.13 PM

開園6年目 フランチャイズ制の保育園

3ヶ月～6歳までの乳幼児がいる。

★スローガン

健康的・活動的にすぐれた環境作りを行う。

道徳観念＝思いやる心を大切に…

地域社会に貢献できる力を身につける。（社会的責任感を身につける）

★園の方針

リスペクト…尊敬する心を大切に（人だけでなく周りの道具、遊具にも感謝をする心）

確固たる信念・ゆるぎない信念…それぞれの個性を大切にしていく。（1人ひとり違った個性）

情熱を持って何事にも学んでほしい

★日常のカリキュラム

- ・それぞれの価値観・道徳観を大切にしている。
- ・自然や環境についての事を書いて紙に貼り、声に出して読んでみる。
- ・それが学んだことを家庭でも実践してほしい。
- ・経済についても学んでいる。（お金の使い方や節約のしかたなど）

◎家庭との連携をとても大切にしている。

家で制作したものを保育園に持ってきて飾り、達成感を家庭と共有している。

アレルギーに対しても密に連携を取りあっている。→それを各部屋に貼り、共通理解をしている。

7. オデッセイ グローバルプレスクール H.28.10.14 AM

- ・上流階級の子どもたちが通っている。
- ・マレーシアのペナンとクアラルンプールにもある。
- ・イタリアで開発されたプログラムを調節して使用している。
(シンガポールとマレーシアのプログラムは同一化されている)

★園の5つの方針

①子どもを中心に、子どものための保育を実践する。

②地域との交流、外部とのコラボを取り入れる。

例：警察の仕事を学ぶ…警察署から実際に来ていただき教えてもらう。

チャリティ活動を学ぶ…チャリティ団体と提携し、来ていただいて教えてもらう。

③多様性を受け入れる。

いろいろな国の子どもが在籍しているので誰とでも対応できるようにする。

障害児も同じカリキュラムで受け入れている。

(場合によっては保護者がテラピストをつけて一緒に登園させる)

⇒健常児も一緒に過ごすことで接し方を学ぶ。

④プロフェッショナルコンタクト

保護者・職員のトレーニングを図る。

双方の資質向上を目指す。

⑤手先を使ったあそびを多く取り入れる。

乳児…基本的なこと・衣服の着脱など

幼児…手先を使って数や文字に興味を持つ

興味をそそるものを工夫しながら取り入れていく。

★カリキュラム

・英語・中国語…各クラスに専門の先生がいる。

中国語しか話さない先生もいる。そうすることによりどんな時でも
対応できるようにしている。

・表現あそび…それぞれの部屋があり学位を取得している先生にきてもらい専門的に

(音楽・美術) 教えてもらっている。作った作品は「子ども博物館」に展示される。(園内にある)

作品を見てもらうことで子どもは自信につながり、保護者は成長を感じ
ことができる。

・運動あそび

・数あそび

◎園内の様子

・食堂…2か所ある。

その中のひとつは給食室と隣接されておりガラス越しにお互いが見えるように

なっている。（においも感じることができるようになっている。）
簡単な調理ができる設備もあり、食育として調理実習を取り入れている。
実際に作ったものをバザー等で売り利益を得ている。（企業化の精神を身につけるため）
18か月の子もメロンジュースやゼリーなどを作った。
1年ごとにテーマを決めている。今年は「折り紙カフェ」サラダやリゾット、プリンなど

- ・図書館・子どもの博物館…園内に設置。博物館には子どもの作品が飾ってある。
- ・ピアザ…5時以降の延長保育の部屋として使用。自由にあそべる空間として親子のコミュニケーションの場となっている。
- ・美術室…専門の先生がいる。
木・粘土・土など多様な素材を用いて作品を作っている。
光・影・形などプロジェクトに沿った作品を作り、博物館に展示したり
展示したものを売って利益を得ている。（主に保護者が買う）
バザー等の売り上げ金は姉妹校すべて合わせて 1,600S ドル（120 万円）
売上金はユニセフに寄付 ⇒ 子どもに返ってくるようにしている。

◎保育について

- ・3歳児…アルファベットは3歳児で覚える。
覚え方は形から書くことはしない。
絵を見て文字に見立てて声を出して読んでいく。

例：U の文字の場合

UMBRELLA ⇒ 傘の絵の中から U の文字を探す。

書くという認識はせずに形として楽しむ。

- ・4歳児…ダンスなどのパフォーマンスにより自信をつける。
- ・18か月～3歳児…こども劇場（発表会など）ではみんなの前で泣かずに立っていられるだけでよいとしている。
- ・5歳児…自由あそびの中で弱い子を中心先生の介助をしている。
子どもが床に座ることはない。→読み聞かせの時など目線を合わせられるように自己紹介文を自分で作成し、部屋に貼っている。このクラスの中で自分はここにいるという認識をし、大切にされていると実感できる。

★1年間を通して卒園プロジェクトを実施している。

『コンサートプロジェクト』

コンサートを開催するには…「どのようにするか・どんな仕事があるか
どんな人が必要なのか」など

それぞれの段階に応じて進めていき、それに対しての反省もしていく

- ・子ども同士ペアを作り助け合いながら進めることによりお互いが学び合うことができる。
- ・プログラムも子どもたちの声に耳を傾けながら作っていく。

◎保護者との連携

- ・登園・降園状況の確認はタブレットを入力して行っている。
- ・連絡ノートはなく口頭で1日の様子を伝えている。
- ・何か伝えることがあればEメールでやりとりをする。
- ・園の様子もパソコンから写真で見ることができる。

◎男性保育士について

- (
- ・乳児の担当はしない。(おむつの替えができない)
 - ・同じトイレには入れない。



シンガポールは性犯罪に対する規則が大変厳しい。

男性保育士を守るため

8. EISインターナショナルプレスクール H.28.10.14 PM

日系の幼稚園（日本人のための幼稚園）

そのため日本と同じ4月からの新学期（シンガポールは1月始まり）

ローカル園の小学校に行く子は夏頃にローカル系の保育園に転園する

★園の方針

- ・幼児期の今、何が一番大切なかを考える。
小学校に行ってできることはその時やればよい。（先取り保育はしない）
年齢に合っていないことをしても心には残らない。
- ・3つの想像力を育て創造力を養う。
 - ① 人の気持ちを理解する想像力
 - ② 立体の想像力
 - ③ 時間の経過による変化の想像力

★カリキュラム

2週間ごとにテーマを決め、テーマに沿って構成している。

歌・制作・クッキング・園外保育など ⇒ 「自由にのびのび」と多種多様な教育活動が行われる

◎言葉

母国語は日本語としているが必要によっては英語を使うこともある。

(日本語 2 : 1 英語の割合で話している)

子どもは英語を理解して行動することはできる。

英語が話せたら楽しいな…正しく話すよりも英語でコミュニケーションがとれればよい。

(楽しむ英語でよい)

◎日本人としてのふるまい

この園の子どもたちは将来日本に帰り、日本で過ごすことが多い。

海外にいたから何もできないではなく、帰国しても困らない必要なことを身につけるようにしている。

例：箸を正しく持つ

立ち歩きながら食べない。

室内は靴をぬいで生活する

靴はそろえてぬぐ など

◎成績表について

それにとらわれてはいけないが「こんなことができるようになった」と保護者と共に感するため配布している。(半期に1度のペース)

◎補助金について

ローカルカテゴリーではないので政府からの補助金は受けられない。

(日系、インターナショナル系に所属する)

建物も10年契約で入札をしてはすれば移設をしなければならない。

(今年はずれたため、セントーサに移設が決定している。)

◎保護者との交流

- ・ファミリーディ…運動会など保護者と一緒に楽しむ
- ・懇談会を定期的に開催している。要望・クレームには納得のいくまで説明をし保護者の理解を得ている。

感想「海外研修を終えて」

まず、日本でも新しく施行された子育て支援対策という点でシンガポールではどのようなものがあるのか、興味があった。

保護者を支援する政策や制度には驚かされた部分もあったがどれも子どもや保護者のことを思い、子どもの将来のことを考えてのものですべては子どもに、返ってくるという考え方の下で成り立っていると感じた。

今回、見学させていただいた園は環境はもとよりカリキュラムや設備もすばらしく保育も子どもたちのことを思い、行っていた。ただ、ほとんどの園が「上流家庭」「中流家庭」の子どもが登園していることで富裕層の家庭だけが立派な設備の

整った環境で保育が受けられるのか、「下流家庭」の子どもの将来はどうなのであろうかという疑問はあった。補助金はあるにせよ高額の保育料なのでやはり「すべての子どもが」受けられることになるにはまだまだ先のことかと感じた。

最終日に訪問した日本人のための保育園（インターナショナルプレスクール）では、日系の保育園であるがゆえに政府からの補助が受けられないなどの厳しい部分もあるが日本に帰国した時に困らないようにと日本人らしいふるまいを教えていると聞き、改めて海外の中での日本という国のすばらしさを感じた。

全体的に教育や保育に対して高度な要求をしているところが伺われ、私たちの保育とは全くかけ離れた思いがあった。しかしその先にある子どもを思う気持ちや自尊心を育てるという気持ちはどの国でも同じだと思った。

シンガポール研修に参加させていただきありがとうございました。
国やそれぞれの園の方針が違っても「子どものために」という思いはどこも同じで改めて「保育士」という仕事に誇りと責任をもって携わっていこうと思いました。
尚徳福祉会の他の園の皆様と一緒に研修させていただきましたことはとてもよい刺激となりました。これから保育を見直し生かしていきたいと思います。
ありがとうございました。